

## 第5章 さらなる改善の検討

### 1. さらなる改善に向けて

#### (1) 施設の複合化等の検討

市内の小学校、中学校は、これまで大規模改修等を実施し、教育環境の維持に努めてきました。一方、児童・生徒数は減少傾向にあり、夷隅地域では現在、小学校の統合事業を実施していますが、今後は、大原地域や岬地域でも児童・生徒数が減少することが予想されています。

また、文化会館・公民館は、旧町ごとに施設機能が重複していますが、比較的施設が新しくまた長寿命化が可能と判断されます。

学校や文化会館・公民館は、今後、施設の機能転用や余裕スペースの活用等により、地域のコミュニティ拠点として、利便性の向上を図ることが考えられます。

#### (2) 文化施設のあり方検討

旧3町が合併して誕生した市であることもあり、現在でも市庁舎、保健センターのほか、ホール機能を保有する文化施設を3施設保有しており、機能の重複が課題となっています。

今後は、ホール機能を保有する文化施設のあり方を横断的に検討していく必要があります。

施設名	所在地	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度	ホール客席	ホール利用者数	備考
夷隅文化会館	深谷 1968-1	R C	2	2,811	平成 4	可動 600席	2万 948人	・避難所指定 ・公民館機能保有 ・併設スポーツ施設の窓口 ・駐車台数 206台
大原文化センター	大原 7838	R C	2	4,225	平成 3	固定 800席	1万 7,729人	・避難所指定 ・公民館機能保有 ・設備部品が生産されていない ・駐車台数 170台
岬ふれあい会館	岬町東 中滝 720-1	R C	2	5,254	平成 8	固定 849席	1万 922人	・津波バッファゾーンに立地 ・岬保健センター複合 ・駐車台数 253台

夷隅文化会館のホールは、可動式の椅子席であるため、ホール機能を転換して展示場・スポーツ等の機能として活用していく方向性が考えられます。

大原文化センターのホールは、現在使用されている設備装置の交換部品が生産されておらず、現在の装置を更新するには多額の費用が掛かります。また、駐車場も狭く、イベント時に駐車場が不足しているという課題もあるため、ホール機能については転用を考えていく段階にあります。

岬ふれあい会館のホール機能は一番充実しており、駐車場も確保されています。

今後は、3つのホール機能を集約し、市民のニーズにあった利用環境の向上を図ります。

### (3) 空き公共施設の活用

現在実施中の、夷隅小学校統合事業では、千町小学校、旧中川小学校がいわゆる「空き公共施設」となることが予定されています。また、いすみ市市民ギャラリーのように、利用頻度の低い施設や実質利用が無い施設もあります。そのほか、今後施設の再編を実施していく中では、新たに空き公共施設となる建物も生じてくる可能性は大いにあります。

そうした建物については、まず企業誘致・民間活用を含めた有効活用策を検討し、活用策が見つからない場合には、安全性を考慮し廃止・解体の検討を行います。

#### 《有効活用策の検討が可能な空き公共施設》

施設名	所在地	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	耐震 補強	現状
千町小学校 校舎棟	松丸 3226	RC	2	1,658	昭和 46	未	平成31年3月まで学校として 利用。
千町小学校 特別教室棟		RC	2	227	平成 8	不要	
千町小学校 屋内運動場		S	1	530	昭和 47	済	平成31年3月まで学校として 利用。 避難所に指定。学校開放施設 として利用予定。
旧中川小学校 校舎	行川 506-5	RC	2	1,873	昭和 52	済	平成31年3月まで学校として 利用。
旧中川小学校 屋内運動場		S	2	689	昭和 52	未	平成31年3月まで学校として 利用。避難所に指定。
いすみ市市民 ギャラリー	大原 7400-17	RC	2	486	昭和 53	未	千葉県と連携し、企業誘致を 実施中。
旧中川保育所	行川 723-2	W	1	489	昭和 49	不要	現在は、防災備蓄品を保管。
三門台住宅	岬町三門 64-12	その他	1	40	昭和 60	不要	現在は、利用なし。

#### ○活用中の空き公共施設

いすみ市では、千葉県と連携し「空き公共施設等を活用した企業誘致活動」を進め、地域経済の活性化、雇用の機会の拡大を図っています。現在までに、「旧岬学校給食センター」へ企業が進出され冷凍食品を製造する工場として活用されています。

また、「旧サンライズガーデン」は、総務省のオープンリノベーション事業により、市営プールから新しい公共空間として集客拠点や新たなビジネス拠点として生まれ変わり、コワーキングスペースとして様々な働き方をする人の集まる場となっているほか、イベントなども開催されています。

今後は、国や県、民間事業者と連携し、空き公共施設の活用について取り組んでいきます。

#### (4) 活用方法の検討（旧中川小学校・千町小学校）

##### ①旧中川小学校・千町小学校の今後の方向性について

旧中川小学校校舎は、平成29年に行われた旧中川小学校と旧国吉小学校の「夷隅小学校」としての統合後、旧国吉小学校の敷地に新校舎が建設される平成31年までの間、暫定的に夷隅小学校校舎として活用されています。また、千町小学校は、旧国吉小学校敷地での新校舎建設後、「夷隅小学校」に統合されます。旧中川小学校の校舎や千町小学校の屋内運動場は耐震化が完了しており、旧中川小学校・千町小学校の敷地全体を含め、企業誘致や観光・交流の場など他用途への転用による活用が考えられます。

##### ②「グリーンツーリズム」の拠点としての活用

いすみ市は、いすみ米を中心に、野菜や果物などの農産物や、黒潮と親潮がぶつかる豊かな海の恵みを受けた豊富な水産物があります。これらの農水産物は市場でも高く評価されており、都市部から多くの方が農水産物を求めて訪れています。

旧中川小学校校舎は、都内や神奈川からいすみ市にアクセスする国道465号に近接した市の玄関口にあたる場所にあり、近くにいすみ鉄道の上総中川駅もあることから、いすみ市の豊かな農水産物の販売と、地域の食や観光の情報発信拠点として活用することや、この地域の牧場や寺社などの観光資源と合わせたグリーンツーリズムの拠点としても活用することができます。

##### （グリーンツーリズム拠点と地域の観光資源の組み合わせイメージ）

旧中川小学校周辺には、千葉県指定有形文化財に指定され、波の彫刻で有名な行元寺旧書院や、近隣の民間観光施設などの観光資源があります。これらの観光資源と大原漁港の「港の朝市」を組み合わせた自家用車での周遊や、上総中川駅の使う観光客が、グリーンツーリズム拠点を中心にレンタサイクルで周遊できる仕組みづくりなども考えられます。

千町小学校周辺も農村風景が広がり、地方創生拠点整備交付金を活用して「いすみ市土着菌完熟堆肥センター」が設置されるなど、いすみ市産農産物の高付加価値化を目指した動きが始まっており、豊かな地域資源と連携した活用が考えられます。

##### （いすみ市土着菌完熟堆肥センター）

